

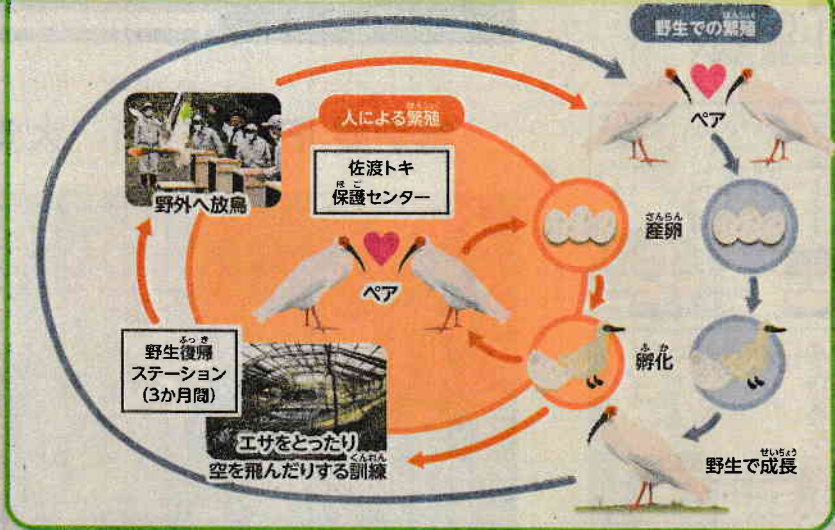
# 本州でトキ放鳥へ

# 佐渡島でトキが増えた仕組み

佐渡から能登へ、出雲へ



羽のピンク色が美しいトキ。朱鷺色とも呼ばれる (2024年10月、佐渡島で)



2025年(令和7年)2月27日(木曜日)

夕刊 読 者 新 聞

# トキの放鳥 なぜ本州でも？

## トキの歴史

1952年	国の特別天然記念物に指定される
81年	佐渡島で5羽を捕獲。野生で絶滅
99年	中国から2羽が贈られる。人工孵化に成功
2003年	最後の日本産個体が死ぬ
08年	佐渡島で初の放鳥
12年	野生下で繁殖に成功
26年	石川県の能登半島で放鳥予定
6月	
27年度	島根県出雲市が放鳥を目指す

トキの学名は「ニッポニア・ニッポン」。まさに日本を象徴する鳥ね。ペリカンの仲間。体長は約80センチ。かなり大きな鳥なのよ。

江戸時代には本州だけでなく北海道や九州にもいたけれど、「朱鷺色」とも呼ばれる美しいピンクの羽毛を自当てに乱獲されて激減したの。帽子の飾りや羽根ぼうずの材料になり、海外にも輸出されたわ。農業の使用でエサになるトジョウやカエルが減ったことも打撃になったのよ。

1981年には佐渡島で最後の5羽を捕獲したけれど、人工的な繁殖はうまくいかなかった。2003年には最後の個体「キン」が死んだわ。

ただ、佐渡島では中国から贈られたトキの繁殖も進めていたの。成鳥が育ち、08年には10羽が佐渡島の空に放たれたわ。放鳥は毎年のように続けられ、環境省は野生下の生息数を576羽と見積もっているの。群れもできて、野生下の繁殖も進んでいるのよ。

環境省は「国内のトキが自然状態で安定的に存続できること」を目指しているわ。

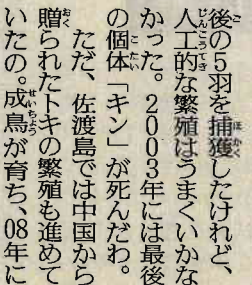
1000羽いけば、生物学的には存続可能性が高いと考えられるそうよ。でも、佐渡島だけでは目標達成には狭すぎる。だから島外でも定着させて、増やす必要があるの。

放鳥したトキが佐渡島の中



野生下で500羽超

国の特別天然記念物トキの本州初となる放鳥が、石川県の能登半島で行われると聞いたよ。日本産のトキは絶滅したけれど、新潟県の佐渡島で中国産のトキの繁殖に成功して自然に放ってきたんだよね。理科子先生、どうして本州でも放鳥するの？



## 環境適応力高める

環境省は「国内のトキが自然状態で安定的に存続できること」を目指しているわ。

1000羽いけば、生物学的には存続可能性が高いと考えられるそうよ。でも、佐渡島だけでは目標達成には狭すぎる。だから島外でも定着させて、増やす必要があるの。

放鳥したトキが佐渡島の中

## 能登半島からも

本州での放鳥場所として、石川県の能登半島と島根県の出雲市が選ばれているわ。エサを探せる水田や、巣を作りやすい森林が多いことが評価されたためよ。

環境省は今年、能登半島では26年6月上旬に放鳥することを決めたとわ。1回あたり15〜20羽くらいで、何年間も

## 生息地整備するファン

能登半島や出雲市では、トキの受け入れに向けた動きが広がっているのよ。

石川県穴水町は本州最後のトキが捕獲された場所よ。宮下源一郎さん(77)が2022年に設立した「能登トキファンクラブ」の会員は約200人まで増えたそうよ。みんなで協力して水田の地盤を固めて水を張り、エサ場になるピオトープに作りかえたわ。「カエルやトンボが帰ってきた。夏場にエサが不足したら、ここで羽を休めてほしい」と期待しているの。

出雲市では3歳児健診でトキの絵本をプレゼントするんだって。みんなトキが自由に空を飛んでいる姿を見たことがないからね。同市プロジェクト推進室の加村光夫室長は「トキが定着するには市民の理解も必要。トキも人も育つまちづくりを進めていきたい」と話しているわ。(取材・吉良敦岐)



本州で最後のトキが生息した場所にピオトープを作った宮下さん(2月、石川県穴水町で)

中央に集まっていることも心配ね。鳥インフルエンザなどの感染症が広がると、全滅する恐れがある。繁殖地を分散させればリスクが下がるわ。

それに佐渡島だけで育つと、その気候や環境だけにしか対応できなくなってしまうわ。山階鳥類研究所(千葉県我孫子市)の尾崎清明所長は「多くの地域で育て、様々な環境に対する適応力をつけたいといけない。適応した特性が継承されることで、長期的に遺伝的な多様性が広がっていく」と話しているわ。

放鳥は、中で飛べるくらい大きなケージを設置して、自然に飛び立つのを待つ「ソフトリリス方式」で行う方針よ。木箱を開いて放鳥すると、混乱して遠くまで飛び去ってしまう、定着しにくいの。

能登半島では昨年1月の能登半島地震で災害関連死もあわせて500人以上が亡くなり、大勢の人が住まいや仕事を失ったわ。県は「創造的復興プラン」で、トキの放鳥を象徴的プロジェクトと位置づけていて、地域の人も復興のシンボルになることを期待しているのよ。

でも、能登には天敵となるイタチやアライグマが生息し、水田にはイノシシよけの電気柵を設置した場所もある。佐渡島とは違った環境に慣れているかも、本州定着の力ギになるわ。